

科目名	刑事政策	科目分類	■専門科目群 □総合科目群	
			法律学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Criminal Policy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
ふりがな	おかざき しょうへい	実務家教員担当科目	修得単位	4単位
担当者名	岡崎 頌平	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	犯罪現象論、犯罪原因論、犯罪対策論の基礎的知識が修得できる。			
到達目標	受講者は、本講義を履修することで、日本における犯罪情勢を理解し、その原因と対策について説明することができるようになる。			
授業概要	本講義は、犯罪白書等を用いて現代日本における犯罪情勢を理解するとともに、犯罪原因・犯罪対策一般について学習します。その後、犯罪被害者の保護や、少年非行など具体的な各種犯罪とその対策についても学習します。			
授業計画				
第1回	イントロダクション；犯罪の情勢① 認知件数、暗数	第17回	犯罪の予防	
第2回	犯罪の情勢② 日本の犯罪情勢	第18回	犯罪被害者の保護と支援① 犯罪被害者の意義	
第3回	犯罪の情勢③ 治安情勢	第19回	派罪被害者の保護と支援② 修復的司法	
第4回	犯罪原因論① 初期の犯罪原因論	第20回	少年非行① 少年非行の動向	
第5回	犯罪原因論② 犯罪原因論の展開	第21回	少年非行② 非行少年の処遇	
第6回	犯罪原因論③ 犯罪学の転換	第22回	暴力団犯罪	
第7回	犯罪対策① 刑罰論	第23回	薬物犯罪	
第8回	犯罪対策② 死刑	第24回	精神障害者の犯罪① 措置入院制度	
第9回	犯罪対策③ 自由刑	第25回	精神障害者の犯罪② 医療観察法	
第10回	犯罪対策④ 財産刑	第26回	高齢者による犯罪	
第11回	犯罪対策⑤ 保安処分	第27回	ファミリー・バイオレンス	
第12回	犯罪対策⑥ 犯罪と非犯罪化	第28回	交通犯罪	
第13回	犯罪対策⑦ デイバーション	第29回	犯罪の国際化	
第14回	犯罪対策⑧ 受刑者の矯正処遇	第30回	全体のまとめ	
第15回	犯罪対策⑨ 受刑者の地位	第31回	定期試験	
第16回	犯罪対策⑩ 社会内処遇；中間試験			
授業時間外の学習	各回の授業で扱う内容について教科書の該当箇所をあらかじめ読むこと。(予習：120分) 扱った内容についてレジュメ等を使って振り返ること。(復習：120分) ※レジュメはポータルサイトを通じて配布するので、確認すること。			
履修条件 受講のルール	法律事例研究Ⅰ・Ⅱ、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法の単位を修得済みであることが望ましい。 ポータルサイトを通じて事前配布されるレジュメを取得して(授業中に配布しない)、授業中に見ること (レジュメについては必ずしも紙である必要はなく、デジタルデータでも構わない。デジタルデータの場合には、ノートパソコンやタブレットを持参の方が都合がよいと思われる。) 最新の六法を持参すること。			
テキスト	川出敏裕・金光旭『刑事政策〔第2版〕』成文堂(2018年)			
参考文献・資料	前田忠弘ほか『刑事政策がわかる〔改訂版〕』法律文化社(2019年) 竹内謙治ほか『刑事政策学』日本評論社(2019年)			

成績評価の方法	試験 70% (中間試験 30%、定期試験 40%)、小テスト 30% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜 1・3 限
成績評価の基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	予習でテキストを読む際は、ぜひ疑問点などをメモして、講義に臨んでください。